

# くらしの 情報館

ホームページアドレス  
<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>  
 ☎=問い合わせ先  
 内=内線番号  
 ◇本庁舎 八幡小路7-1 ☎21111  
 ◇表郷庁舎 表郷金山字長者久保2 ☎32111  
 ◇大信庁舎 大信増見字北田58 ☎462111  
 ◇東庁舎 東釜子字殿田表50 ☎342111

## 募集

### パソコン教室

- 《昼間初級講座》
- 日時 5月14日(月)～6月8日(金) (毎週月・水・金曜日) / 午前9時～正午
  - 申込開始 5月1日(火)から
  - 先着順
  - 会場 市産業プラザ人材育成センター(中田)
  - 受講料 1万円
  - 定員 20人
  - 受付時間 午前9時～午後5時 ※平日のみ
  - 申込方法 受講料を持参し、センター窓口へ直接お申し込み

## 犬の登録と狂犬病 予防注射

生後91日以上の犬は、生涯1回の登録と年1回の狂犬病予防注射の接種が法律で定められています。必ず登録し、予防注射を受けてください。

なお、登録が済んでいる飼い主の方には、事前に「狂犬病予防注射申請書」を送付します。裏面が問診票になっていますので、注射を受ける際に忘れずに持参してください。

- 実施日 ▼白河地域 4月21日(土)・26日(木) ▼表郷地域 5月15日(火)・16日(水) ▼大信地域 5月22日(火)・23日(水) ▼東地域 5月17日(木)・18日(金)
- ※会場ごとの日程は、回覧文書または市ホームページでご確認ください。
- 費用 3、100円(注射料 2、550円・注射済票 550円)
- ※あわせて犬の登録を行う場合は、登録料3、000円が別途必要です。
- 本庁舎生活環境課 内2164 / 各庁舎市民福祉課 表郷 ☎2113 大信 ☎463

## 案内

### 地域づくり活性化 支援事業補助金

市内の団体等が自発的に取り組む活動や事業の費用について、一部を助成します。

- 受付期間 4月16日(月)～5月31日(木)
- 助成額 活動や事業に必要な経費の3分の2以内で、50万円が上限
- 提出書類 ①補助金等交付申請書 ②事業企画書 ③収支予算書 ④団体等概要調書 ⑤活動実績の分かる資料(会報やチラシなど) ⑥団体の規約や名簿など
- ※提出書類の各様式は、市ホームページからダウンロードできます。また、本庁舎および各庁舎総務課、各行政センターでも配布します。
- 提出先 本庁舎地域支援課(2階)または各庁舎総務課に必要書類を持参いただくか、郵送で提出してください。

## 平成24年度国民年金保険料

平成24年度の国民年金保険料は、前年度より40円引き下げられ、月額14、980円となりました。

納付書は、日本年金機構から4月上旬に1年分まとめて送付しますので、金融機関(ゆうちょ銀行を含む)またはコンビニエンスストアで忘れずに納付してください。

また、口座振替もできますので、金融機関や年金事務所でお申し込みください。

なお、保険料は2年を過ぎると納められなくなりますので、ご注意ください。

●本庁舎国保年金課 内2175

## 一部事務組合統合

4月1日、白河地方広域市町村圏整備組合(以下、広域圏)に西白河地方衛生処理一部事務組合(以下、衛生組合)と白河地方水道用水供給企業団(以下、水企業団)が統合されました。

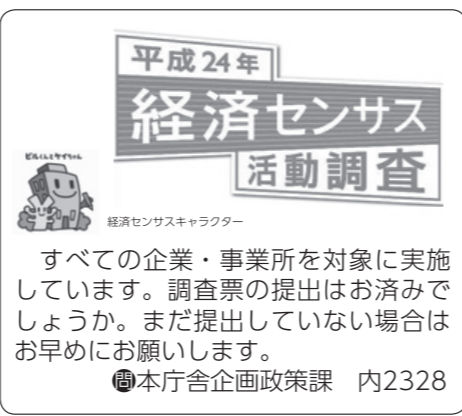
これにより、衛生組合は

●本庁舎地域支援課 内2256 / 各庁舎総務課 表郷 ☎2111 大信 ☎462111 東 ☎342111

## 東日本大震災で被災した住宅の復旧支援

市では、震災で被害を受けた住宅の復旧を支援します。

- 対象 自ら居住し、一部破損以下の被害を受けた住宅の所有者で、市税等に滞納がない方(全壊・大規模半壊・半壊の住宅を除く)
- ※平成23年度に補助を受けた方は対象外
- ※り災証明がない場合は、写真等で被害が確認できること
- 対象工事 住宅本体の屋根、壁、床、基礎等の修繕・補修工事で費用が20万円(消費税等を除く)以上のもの
- 補助金額 対象工事費の10%補助(上限15万円)
- 申請期間 4月23日(月)～11月30日(金) (平成25年1月31日までに工事が完成すること)
- 本庁舎建築住宅課 内2264 / 各庁舎事業課 表郷 ☎4786 大信 ☎462111 東 ☎342114



すべての企業・事業所を対象に実施しています。調査票の提出はお済みでしょうか。まだ提出していない場合はお早めをお願いします。

●本庁舎企画政策課 内2328

「衛生課」、水企業団は「用水供給課」となります。業務内容やお問い合わせ先に変更はありません。また、衛生組合名の「ごみ袋」等も引き続きご利用いただけます。

●事務局 総務課 ☎21145 衛生課 ☎283558 用水供給課 ☎255395

## 白河文化遺産めぐり

白河の文化遺産をめぐるスタンプラリーとツアーを開催します。

《スタンプラリー》

- 日時 4月21日(土)～4月30日(月) / 午前10時～午後3時
- 内容 すべてのスタンプを集めた方に商品プレゼント(先着200人)

### 固定資産税の納期限を変更します

市では、平成24年度固定資産税の第1期・第2期の納期限を次のとおり変更します。このため、例年4月10日ごろに発送している納税通知書は、6月8日(金)に発送します。

税目	期別	本来の納期	変更後の納期限
固定資産税	第1期	5月1日(火)	7月2日(月)
	第2期	7月31日(火)	8月31日(金)

※第3期、第4期の納期限は例年どおりです。

- 土地・家屋価格等縦覧帳簿の縦覧期間も納期限変更に伴い変更となります(縦覧期間: 6月1日(金)～7月2日(月))。
- 本庁舎課税課 内2130

## 地デジチューナー支援

市では、地上デジタル放送の準備が済んでいない高齢者のみの世帯に対して、チューナー1台を無償で貸し出します。希望される方は、お問い合わせください。

また、非課税世帯やNHK受信料免除世帯に対しては、地デジチューナー支援センターがチューナーを無償貸付する制度があります。

●本庁舎企画政策課 内2398

《ツアー》

- 日時 4月21日(土) / 午前9時～午後2時30分
- 定員 50人 ※要予約
- 参加料 300円
- 本庁舎まちづくり推進課 内2742

## 就学のため転出される 国保被保険者の方へ

国民健康保険の被保険者が、就学のために他市町村に住所を移す場合、特例により引き続き本市の保険証を使用することができま。

使用する場合には、在学証明書(原本)と被保険者証を持参し、届出をしてください。

●本庁舎国保年金課 内2172

## 春の交通安全運動

- 日時 4月6日(金)～15日(日)
- スローガン 「ありがとう孫から教わる 交通ルール」
- 運動の重点 ▼自転車、安全利用の推進 ▼すべての座席のシートベルトとチャイルドシート、の正しい着用の徹底 ▼飲酒運転の根絶
- 本庁舎生活環境課 内2162



# 案内

## 生活習慣病予防健診(集団検診)を受診しましょう

平成24年度の集団検診が、5月18日(金)より始まり、4月1日現在、市の国民健康保険に加入されている被保険者(40歳から74歳)の方に、4月下旬に受診券を送付します。送付された方は、実施期間内に受診しましょう。

なお、国保加入の30歳から39歳の方と4月2日以降に国保に加入された方で、生活習慣病予防健診を受診希望の方は、受診券を交付しますのでご連絡ください。

●本庁国保年金課 内2172

## 権太倉山山開き

本市の最高峰・権太倉山(標高976m)の山開きを行います。当日は、大信地域の特産物の販売も行います。

●日時 4月29日(祝)/午前9時受付・9時30分登山開始  
●集合場所 聖ヶ岩ふるさと

の森(大信限戸)  
●参加料 一般 5000円  
※未成年者は無料  
●大信庁舎事業課 ☎3973

## 消防サイレン吹鳴

春季連合査閲のため、4月22日(日)午前7時に消防サイレンが流れます。火災と間違えのないようご注意ください。

●本庁舎生活環境課 内2166

## 水道部からのお知らせ

水道に関する電話でのお問い合わせ先は次のとおりです。

●料金、閉・開栓に関すること ☎3221  
●工事、漏水、水質に関すること ☎2541  
●経理、庶務に関すること ☎3222

## 肢体不自由者巡回相談会

●日時 4月17日(火)/午後1時～3時  
●会場 中央老人福祉センター「白寿園」(北中川原)  
●内容 義肢などの処方、診察および医療相談

## 白河桜まつり

桜の開花にあわせて、次の各会場で「白河桜まつり」が開催されます。市役所を起点に市内の桜の名所を巡る「白河さくら巡りシャトルバス」も運行されますので、ご利用ください。

- 《白河小峰城桜まつり》  
●期間 4月21日(土)～22日(日)  
※川越藩火縄銃鉄砲隊保存会の甲冑武者行列、姫行列、石垣復旧祈願もちまき大会が行われます。
- 《南湖公園桜まつり》  
●期間 4月7日(土)～5月6日(日)  
※日没時から午後10時まで南湖公園内、翠楽苑前芝生広場の桜をライトアップします。
- 《松雲寺観音(舟田)しだれ桜まつり》  
●期間 4月14日(土)・15日(日)  
※午後6時～8時30分にライトアップします。
- 《乙姫桜まつり(妙閑寺・金屋町)》  
●期間 4月14日(土)～22日(日)
- 《白河さくら巡りシャトルバス》  
●期間 4月14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)  
●料金 無料  
●運行コース 市役所～JR白河駅～白河小峰城～南湖公園  
●本庁舎商工観光課 内2215

●担当医師 白河厚生総合病院整形外科 鈴木幹夫部長  
●持参品 身体障害者手帳および印鑑  
●申込期限 4月10日(火)まで  
●申し込み・問い合わせ先 本庁舎社会福祉課 内2715

## まちかど伝言板

●二胡を楽しんでみませんか。  
●日時 4月22日(日)/午後2時～4時、5月1日(火)/午後6時30分～8時30分(要予約)

## おはなしサークル

おはなしサークル「おはなしのくに(仮称)」では一緒に活動する会員を募集します。興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。  
●日時 4月25日(水)/午前10時から  
●会場 市立図書館小会議室(道場小路)  
●おはなしのくに(仮称)準備委員会 小磯 ☎3688

## 『大正百年と大阪』

白河市長 鈴木 和夫



大震災から一年、犠牲者の追悼式が行われました。依然、苦難は続いています。復興の確かな一歩を刻むのはこれからです。双葉地方は将来の姿を描けず苦悩し、中間貯蔵施設の場所も確定できない。これが原因で、土砂の仮置場も決まらず、除染も進まない状況にあります。なんとか住民のご理解を得て仮置場を整備し、市内の除染を進めていきたいと思えます。さらに大事なことは働く場をつくること。三菱ガス化学の用地造成が始まりました。これに続く企業の誘致や地元企業・農業への支援を通して、雇用の増加を目指します。

今年、明治天皇が明治45年7月29日崩御され、大正と改元して100年です。大正は15年にも満たない短い御世でした。維新の大業を経て、近代国家建設という目標に向かって走りぬけた明治。世界的恐慌と戦争に翻弄され破局へ向かう昭和。大正は、二つの怒涛の時代の狭間にあっていまひとつ印象が少くない。

しかし、よく眺めると、政治的にも文化的にも大きい意味を持っている。日清・日露の戦いを制し「一等国」となった自信と驕慢が同居。新聞の拡張とラジオの誕生による大衆社会の到来。貧富の差と社会主義の登場。女性の存在感の高まり。明治という「重し」が取れ、伸びやかな、しかしどこか軽佻な雰囲気。都市化が急速に進み、

学歴を持つ「サラリーマン」という職層が生まれた。電車を利用し、新聞・雑誌を読み、映画・レコードを楽しむ。同時に民主・自由を求める大正デモクラシーが花咲く。これは大衆が自らの意思を示し、国を動かす時代の始まりでもありました。

橋本大阪市長が脚光を浴びている。小気味よい語り口。絶妙な言い回しで問題を提起。意識的に敵をつくり闘う姿勢。「うまい」と感心する。府と市の二重行政を排しムダをなくすために統合する、との主張は腑にストンと落ちる。法律の改正を伴うことから、国政にも進出すること。事は簡単に運ぶとは思えないが、見事な役者振り。真の改革者かどうかこれから真価を問われます。今、大阪が面白い。難波の地は古くから京都・奈良と結ばれ、外に開かれた経済のまち。鉄砲を扱い財をなした大商人が、茶の湯を高め一流の文化人の顔も持つ。旺盛な事業欲と自由な精神は政治権力を嫌う。当然のごとく信長・家康は人気がない。例外は大阪を大きくした太閤さん。大らかな気風は進取に富む経済人を生む。

阪急電鉄を興した小林一三という事業家があった。大都市では急速な工業化により、新たな職業と価値観を持つ中産階級が生まれようとしていた。これを小林は見逃さなかつた。工場の立ち並ぶ中心地から郊外へ路線を伸ばす。沿線に住宅地を造成し分譲する。サラリーマンはこれをローンで買い、電車で都心に通う。ターミナルにはデパートをつくる。鉄道を起点として、都市開発と流通事業を一体的に行い相乗効果をあげるといふ卓抜した構想。時代を見抜く眼力と実行力で、その後の私鉄の経営モデルを

つくった企業家魂には驚かされる。大正時代には、阪急のほか南海・阪神・京阪・近鉄の五社があり、競いあっていた。大阪は「私鉄のまち」でした。

もうひとつは文化の力に着目したこと。小林は宝塚に「誰でも楽しめる健全な国民劇」を目指し劇団をつくった。しかも少女だけの劇という奇抜さ。ここは実力と努力でしかトップスターになれない厳しい世界で鍛えられた演技と歌唱力、あでやかな衣裳で夢の世界へ引き寄せる。「すみれの花が咲く頃」の舞台から、越路吹雪・乙羽信子・天海祐希・檀れい、ら多くのスターが生まれている。宝塚歌劇は小林の最大の遺産かもしれない。

阪急に対抗するように、阪神が甲子園球場をつくり、全国中等野球のメッカにしたのも大正。今や故郷と母校の榮譽をかけ国民が熱狂する。宝塚や中等野球の新しい文化は、大正という時代に、大阪の私鉄沿線で生まれた。そしてこれを支えたのは大阪毎日と大阪朝日。共に100万部という驚異的な部数を有し、やがて東京へ進出、全国紙となった。大阪は「新聞のまち」でもあった。大正末には、大阪市の人口が東京市を上回った。「民の都」大阪は大正時代最も光り輝いていた。しかし、昭和に入り恐慌と軍靴の響きとともに、「帝の都」東京の存在が大きくなった。

戦後は東京に全てが集中するいびつな姿となり、地方の活力が失われていった。しかし関西では、かつての栄光を取り戻す動きが始まっている。これが、地下水脈を通して地方復権のうねりになるかもしれない。白河もこれに備えなければなりません。